

BRIDGE LIVE 簡易セットアップガイド

2026年2月17日
株式会社フォトロン
映像システム事業本部
ディストリビューションPJ

本マニュアルは初めてBRIDGE LIVEの取扱いを行う事を想定し作成しています。
取扱い前にご確認の上、ご準備をお願いいたします。

BRIDGE LIVEとHELO Plus の違い:

- **Bridge Live:** 大規模/プロフェッショナルな制作向けで、ビデオストリーミングとネットワークの知見が一定程度あることを想定しています。
- **HELO Plus:** 小規模な制作やビデオ技術の初心者向けを想定しています。

同梱物

BRIDGE LIVE貸出機セットには、以下が同梱されています。

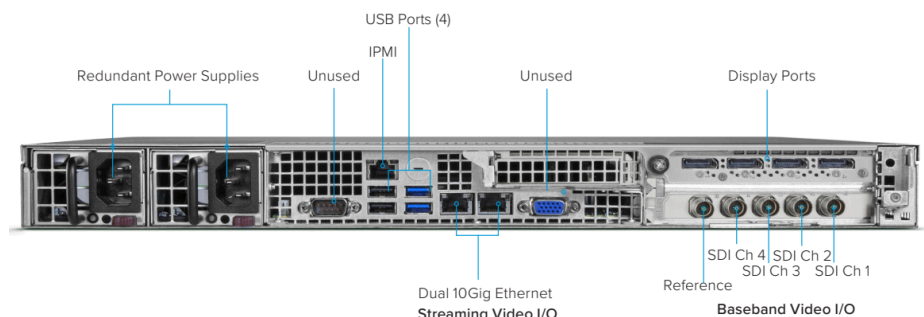
- ・ BRIDGE LIVE 本体
- ・ 電源ケーブル x 2本
- ・ 本セットアップガイド

＜ご留意点＞

キーボード/マウス（初期設定用）、ディスプレイ表示用のモニター/ケーブル
はお客様にてご用意をお願いいたします。

物理配線

本体とモニター（DisplayPort）、キーボード、マウスの接続をお願いします



動作環境

- ・ 温度：5～35℃
- ・ 湿度：80～90% 結露なき事

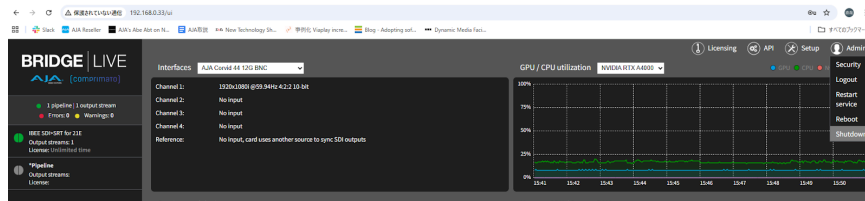
起動

前面右上の物理電源ボタン押下にて起動します。



シャットダウン・リブート操作

画面右上、Adminをクリック、Shutdown/Rebootをクリックします。

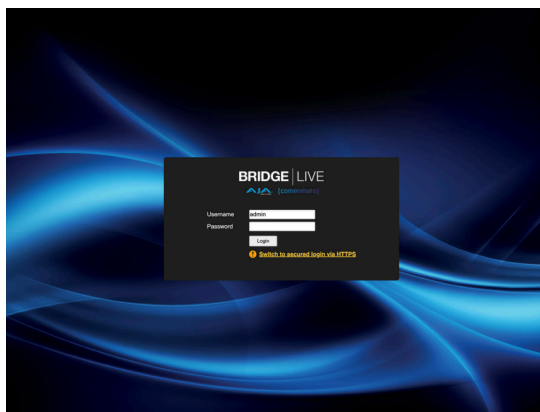


ワークフロー例

- 入力ソース: SDI (1.5G/3G/12G)、SRT、NDI
- 出力: 拠点間の素材伝送、クラウドへの素材伝送、CDNへの伝送
- エンコーダ:
 - TSフォーマット: SRT, UDP, RTMP, HLS
 - ビデオコーデック: H264, H265, JPEG2000 (オプション)
 - オーディオエンコーダ: AAC, AES (非圧縮), AC3

初期ログイン

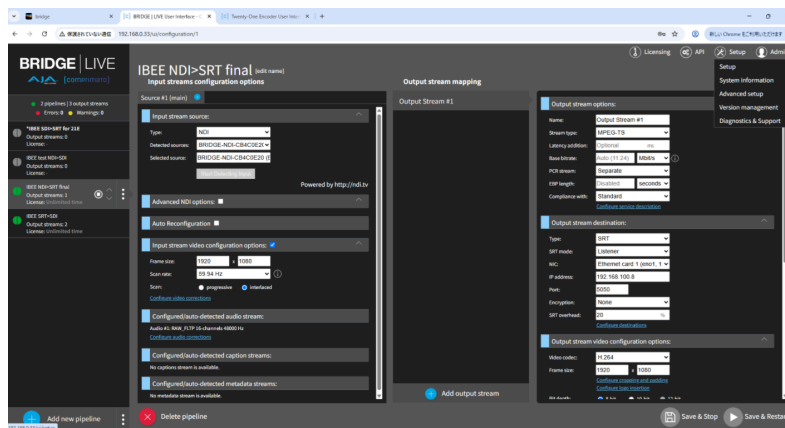
起動後、ディスプレイ上に以下画面が表示されます。



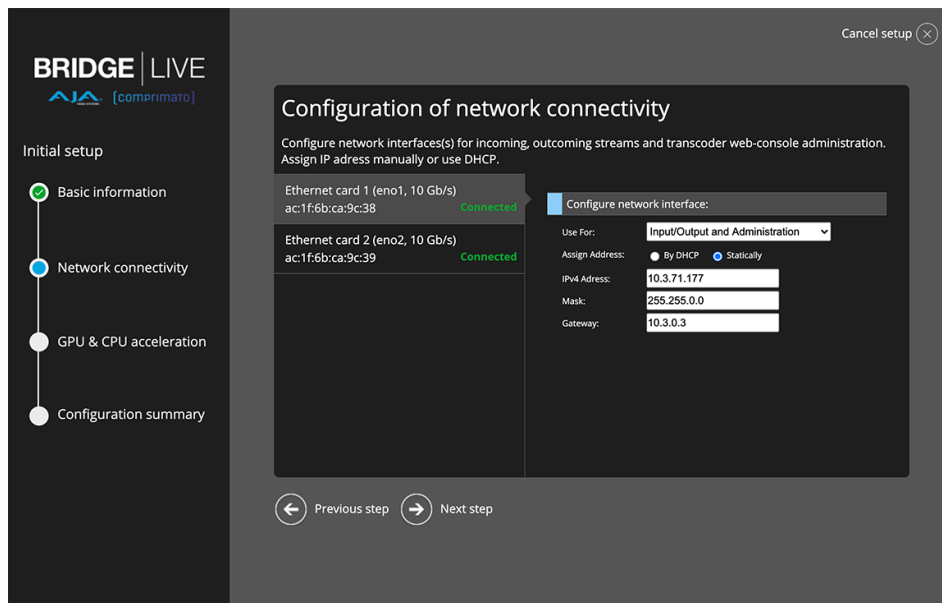
キーボード（マウス）で以下情報の入力をお願いします。

- ・username admin
- ・PW blve00008

初期セットアップ



画面右上Setupをクリックすると以下IPアドレスを設定する画面に推移します。
2つのLANポートの役割を設定します。



- **Administration**

当該ポートを制御ポートとして利用する際に選択します。
その後、**Statically**を選択後、IPアドレスの設定を行なうと当該IPアドレスでウェブGUIより詳細設定が可能となります

- **Input/Output**

ストリームの入出力で利用する際に選択します

- **Input/Output and Administration**

制御ポート兼ストリームの入出力で利用する際に選択します

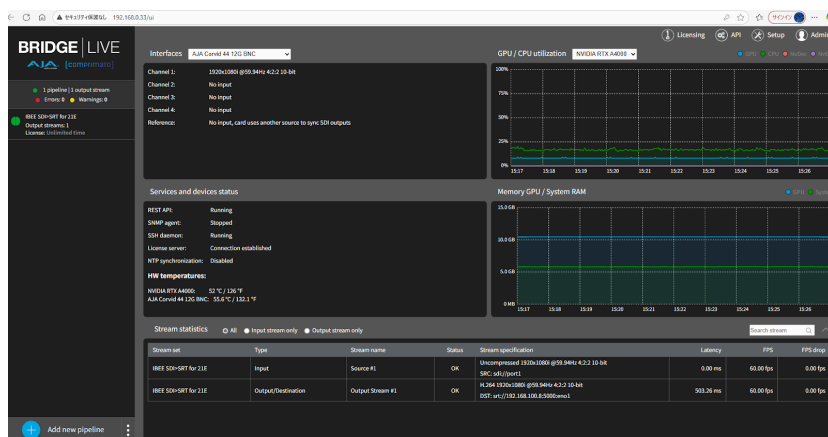
- **Don't use**

ポートを利用しない時に選択します

【ご留意点】 Administrationが2つのポートに設定されないようご留意下さい。

モニタリング画面

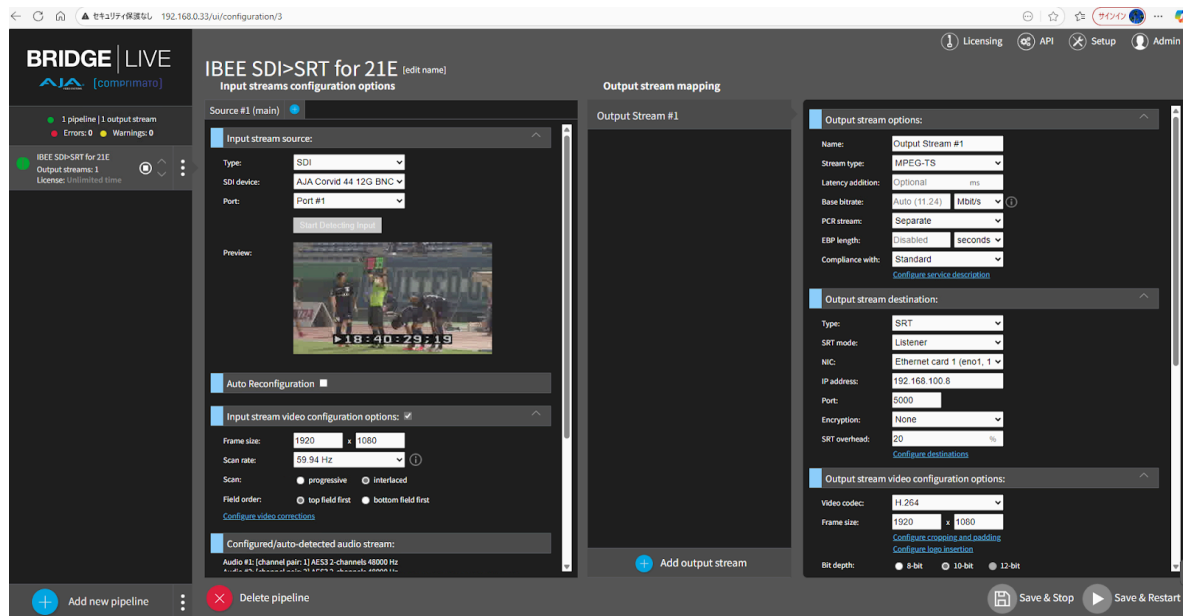
以下画面にて各ネットワークインターフェースの状態確認、GPU/CPU使用率メモリ/システムRAM使用率の確認が可能です。画面下部では内部処理の遅延量の確認が可能です。



【TIPS】 フレーム落ちが高い頻度で発生する際
CPU/GPUの使用率が100%近くで推移していないかご確認をお願いします。

設定画面

画面左下+ボタンを押下、Pipeline作成を開始します。



入力ソースを画面左側（Input streams configuration options）
出力フィードを画面右側（Output stream mapping）で設定します。

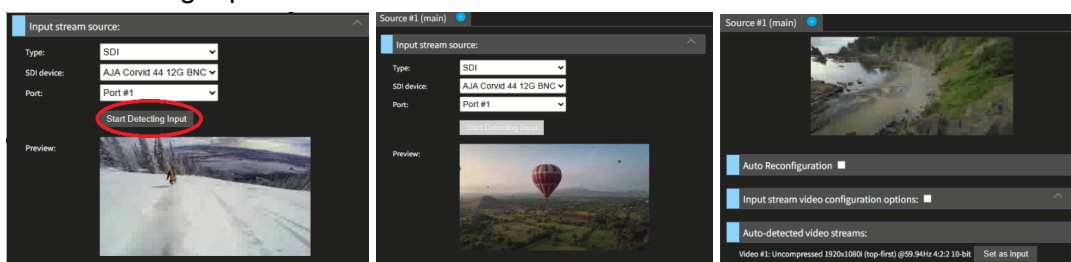
■Video設定

Input streams configuration options

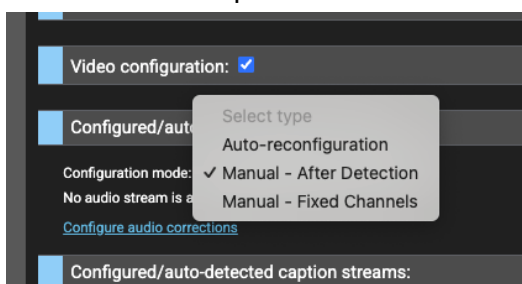
- Typeよりソースの種別を選択します（SDI,SRT,NDI等）
- インターフェースを選択します
 - SDIソースの場合、利用するポート番号を設定をします。
 - ソースがIPの場合、適切なNICポートを選択します。

【TIPS】 Input stream source設定方法

- Start Detecting Inputボタンを押下すると、入力ソースを検知します。



- その後、Set as input鈕を押下するとソースの設定が反映されます。



■Audio

入力ストリームの検知が可能です

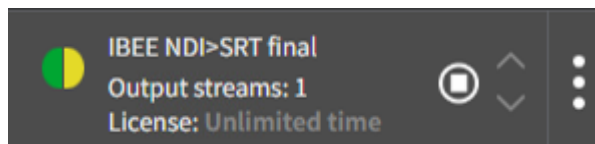
SRT設定

【SRT送受信の要件】

送信側と受信側でIPアドレス/ホスト名について名前解決できる事が要件となります。
トラブル回避の為、デモ・検証実施前にご確認をお願いいたします。

<備考>

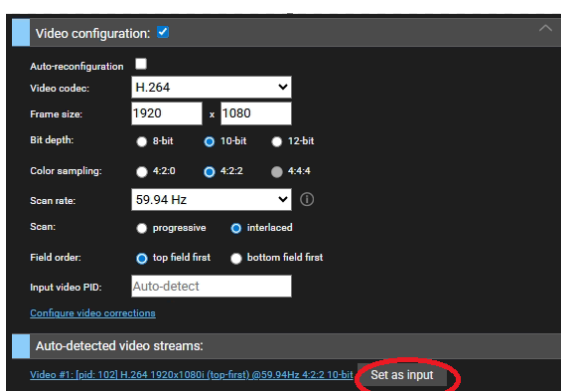
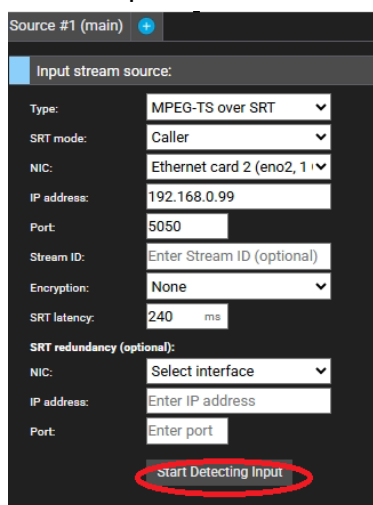
以下はSRTの受信先が適切にストリームを受信できていない際の表示例となります。



Input stream source欄

以下設定を行ないます。

SRT modeでCaller / Listner、IP address、Port、SRT Buffer（デフォルト値：240）
その後、Start Detecting Input釦を押下するとソースを検知され、
Set as Input釦を押下するとソースの設定が自動的に反映されます。



SDI設定

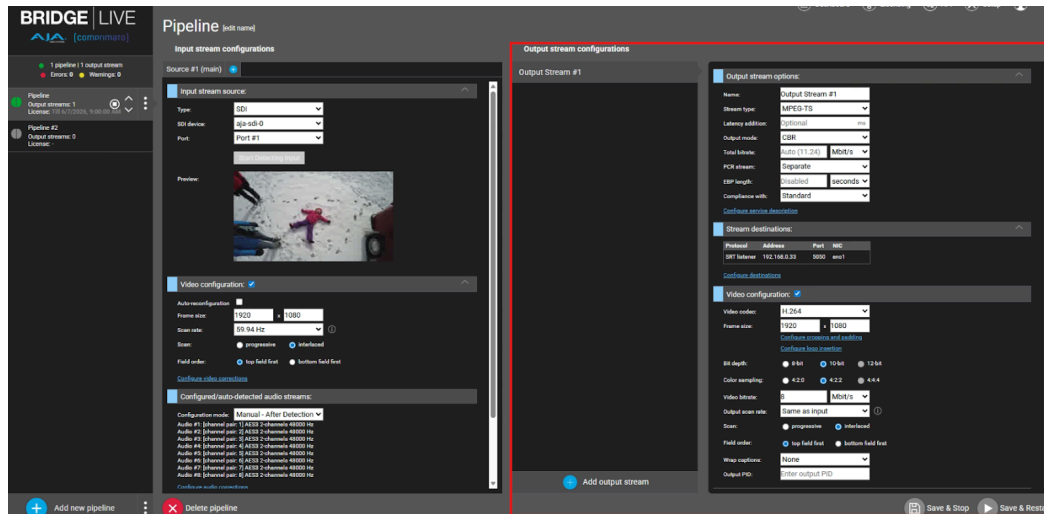
(Stream) TypeよりSDI、SDI Deviceよりaja-sdi-0、PortよりPort番号。

Stream Video configuration箇所にて、ソース/ストリームの設定を行ないます。

NDI設定

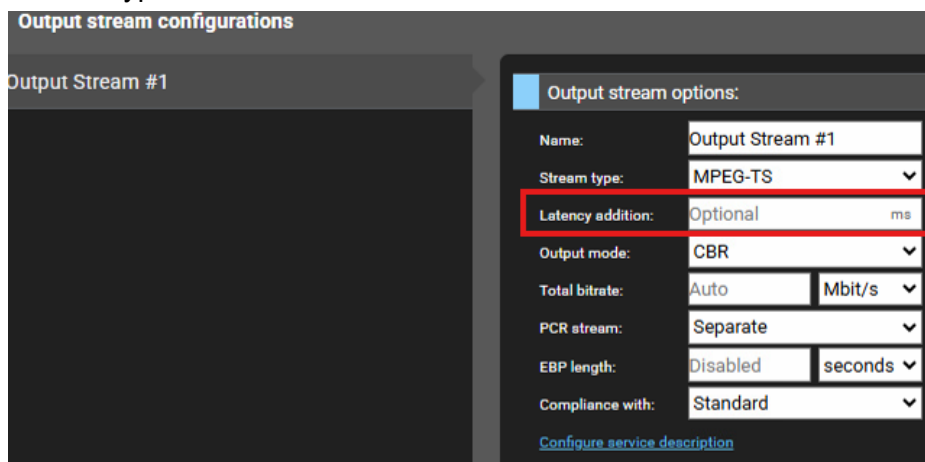
BRIDGE LIVEで検知されたNDIストリームを選択します。

画面右箇所（Output stream configurations）で出力ストリームの設定を行ないます。



Output Stream options :

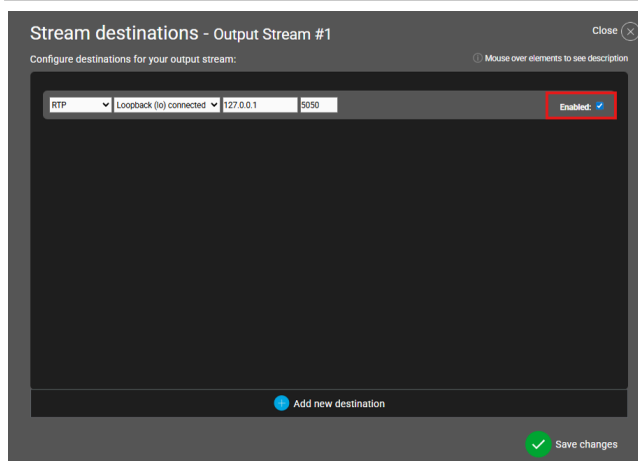
Stream type欄より適切なフォーマットを選択します。



NEW Latency addition欄より必要に応じ、Latencyの付加が可能となりました（v1.18～）

Stream destinations:

Configure destinations箇所を押下、以下画面で必要設定を反映後、**Enableにチェックが入るとデコード処理が開始されます。Enableにチェックが入っている事をご確認下さい。**

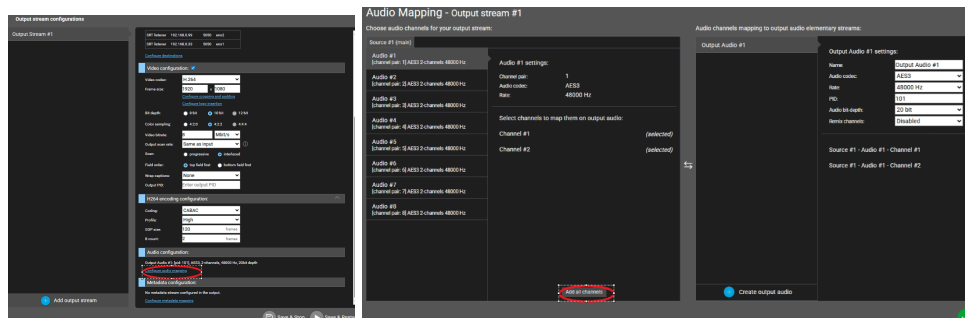


video configuration options

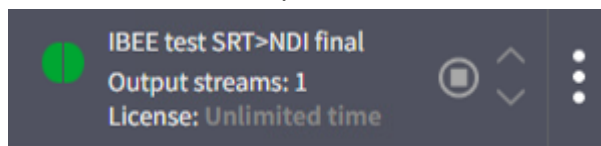
Video Codec, Frame size, bit depth, colorsampling, Video bitrate, Output scan rate, Scan, Field order等、必要設定を行ないます。

<Audio設定>

Output stream audio Configuration option箇所、Configure audio mapping をクリック、以下Audio Mapping画面で設定を行ないます。



設定完了後、画面右下Save & Restartボタンを押下Pipelineを起動します。設定が正常な場合、Pipelineが黄緑色に変わります。



設定に異常がある場合、エラー箇所が赤表示されます。エラー内容のご確認をお願いします。

Pipeline #1 [edit name] Failed to validate pipeline.

Input stream configurations

Source #1 (main)

Input video must be specified if output video is enabled.

Input stream source:

Type: MPEG-TS over SRT

SRT mode: Listener

NIC: Ethernet card 1 (eno1, 1)

IP address: 192.168.0.33

Port: 5000

Encryption: None

SRT latency: 240 ms

NEW Pipelineが正常に起動できない際のエラー表示を改善しました (v1.18~)

出力設定を変更すると原則Pipelineの再起動が必要でした (～1.18)

NEW Outputstream optionでSRT・TS設定時、各種設定を追加・変更に伴うPipelineの再起動不要となりました。 (v1.18~)

BRIDGE LIVEよくあるお問い合わせ事例 (新規導入時):

1. 「Auto Reconfiguration」が有効: 入力信号形式の変更時に自動で調整を試みる機能です。オーディオマッピングがロックされたり、不適切なルーティングになることがあります



2. SDIオーディオがAC3に設定されている: AC3はSDI機器でほとんどサポートされておらず、ホワイトノイズの原因となる事があります。AES3 (非圧縮) に変更をお願いします。

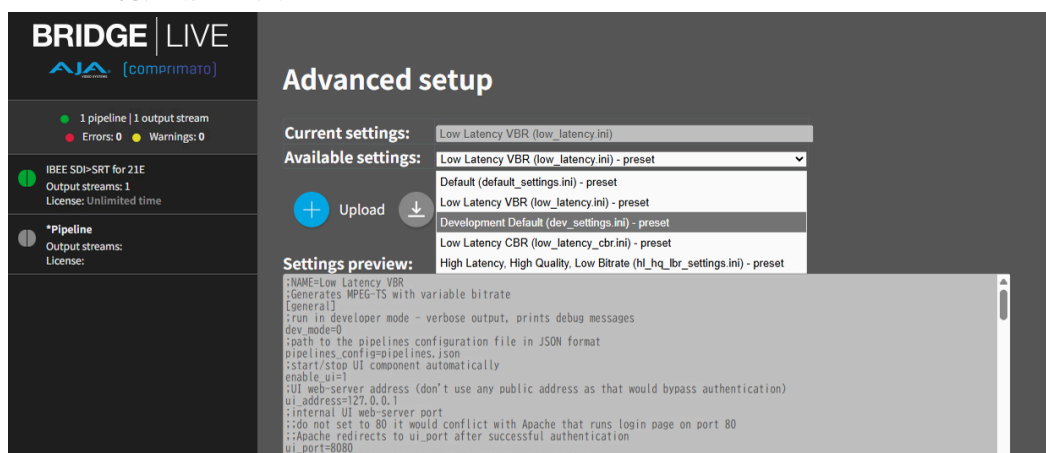
3. ネットワーク設定の誤り: 物理的に切断されているNICがDHCPに設定されているとエラーが発生します。「Don't use」に設定することで解決します。

詳細設定 (Advanced setup)

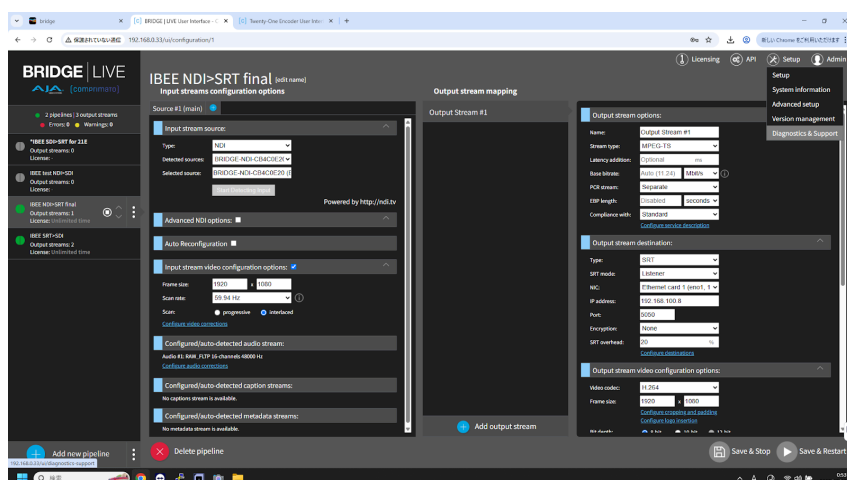
エンコーダーパラメータを微調整できるテキストベースの設定ファイルです。

組み込みプリセット: Default, Low Latency VBR, Low Latency CBR, High Latency, High

Quality, Low Bitrateより選択が可能です。新たに設定を適用するには、BRIDGE LIVE ソフトウェアの再起動が必要です。



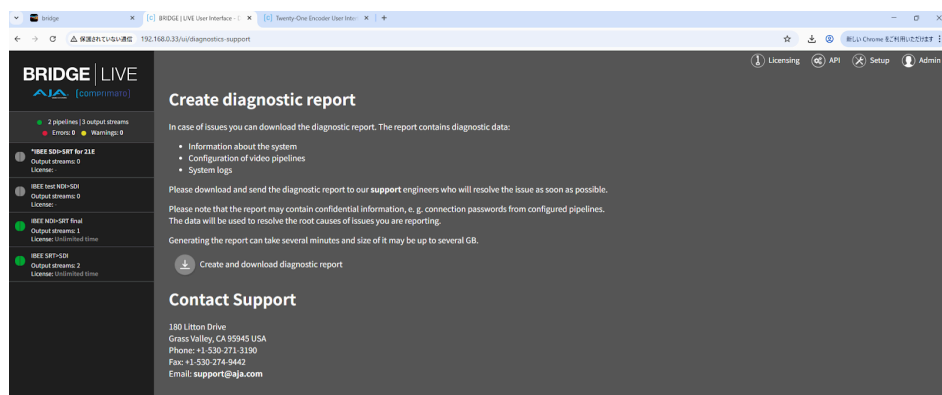
■有事の際の対応



画面右上、Diagnostic & Supportをクリックすると、以下の画面に推移します。

Create and download diagnostic reportをクリック、生成されたファイルを以下弊社サポートポータルにてお送り下さい。

<https://415lzn.share-na2.hsforms.com/2mnjzzZXfR06VLavXyp1lcg>



■問い合わせ先

本マニュアルについてご不明な点は以下サポートポータルにてお問い合わせ下さい。

aja@photron.co.jp

改定履歴

2025年12月4日	input stream設定方法（Tips）追加
2025年12月5日	新機能（v1.18）を反映
2025年12月24日	HELO Plusとの差異追加
2026年2月3日	v1.18.2追加
2026年2月17日	問い合わせ先を更新